

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A:十分達成できている
B:おおむね達成できている
C:やや不十分である
D:不十分である

1 前年度 評価結果の概要
「授業の工夫・改善」については、すべて成果指標を達成したが、学力の向上につながったという実感は今一歩である。今年度は、「生徒の学習に対する主体的取組の確立」についての取り組みを深化させ、卒業後の進路実現につなげていきたい。
2 学校教育目標
他者を尊重し、高い志と豊かな心をもって逞しく未来を切り拓く力を育てる。
3 本年度の重点目標
(1)授業・進路指導の充実によって、確かな学力を育み、生徒の進路保障を図る。
(2)教育活動全体を通して豊かな心を育み、生徒の人間成長を図る。
(3)学校体育・学校保健等の充実によって、健やかな体を育み、生徒の逞しい成長を図る。
(4)不断の業務改善・意識改革によって、教職員のワークライフバランスを実現する。
(5)コミュニティ・スクールの導入によって学校の魅力を高め、志願者増を図る。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目
表: 評価項目, 重点取組内容, 成果指標(数値目標), 具体的取組, 達成度(評価), 最終評価(実施結果), 評価, 学校関係者評価(意見や提言), 主な担当者
●学力の向上
●心の教育
●健康・体づくり
●業務改善・教職員の働き方改革の推進

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

表: 評価項目, 重点取組内容, 成果指標(数値目標), 具体的取組, 達成度(評価), 最終評価(実施結果), 評価, 学校関係者評価(意見や提言), 主な担当者
★唯一無二の誇り 高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望
「学力の向上」については、概ね指標を達成することができた。次年度も引き続き、わかりやすく、学習意欲が向上するような授業の実施を通して学力の向上を目指し、かつ多様な働きかけを通して社会に貢献する志を持つ生徒を育成していきたい。
「心の教育」については、他者や諸文化の理解や体験活動含む様々な取り組みを行い、生徒の自己有用感の期首と比較した「向上」を目指す。また、いじめアンケートのあり方の再検討及び相談しやすい環境がないと感じる生徒にとっても相談できる環境のあり方を検討し、早期発見、早期対応の体制の充実を図ってきたい。また、指標については「いじめ防止基本計画」そのものではなく、それに基づく具体的な取組について設定することも検討したい。
「健康・体づくり」については概ね指標を達成することができたが、保護者や家庭との協働による取組を検討したい。
「業務改善・教員の働き方改革の推進」については、前年より確実に改善できたものの、成果指標を達成できなかった。引き続き業務を3つの観点(①基本的には学校以外が担うべき業務、②学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務、③教師の業務だが、負担軽減が可能な業務)に分けてさらなる業務改善を進めて行く必要がある。
「唯一無二の誇り高き学校づくり」については、様々な取り組みを通して生徒の地域に対する想いの深化や自己有用感の向上につながるような取り組みを進めたい。特に導入2年目となるコミュニティ・スクールについては今年度の取り組みの継続とさらなる発展を目指していきたい。